

## 日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 稲葉 勝利

## 1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東北西 1
歩行区間詳細	スタート地点:新潟駅
	ゴール地点:あつみ温泉駅
実施期間	2019年11月12日(火)~11月16日(土)
全歩行距離	109.3km

## 2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	74	5	12期
2		住山 茂	73	5	12期
3		江守 善昭	81	1	5期
4					
5					

## 3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	11/12	新潟駅~新潟東港	17.7km	住山・稲葉	
2	11/13	新潟東港~笹口浜	19.5km	住山	
3		笹口浜~村上瀬波温泉	19.6km	稲葉	
4	11/14	村上瀬波温泉~桑川	19.5km	江守・住山・稲葉	
5	11/15	桑川~越後寒川	9.2km	稲葉	
6		越後寒川~小岩川	19.3km	住山（稲葉）	鼠ヶ関~小岩川間は稲葉も同行
7	11/16	小岩川~あつみ温泉駅	4.5km	住山・稲葉	

## 4. 参加費

参加者延べ日数 2人×5日+ 1人×1日

参加費合計 1,100円

## 5. 費用概算(稲葉の場合)

交通費(大人の休日キップ使用) 21,067円

宿泊費(酒代含む) 32,350円

昼食等 5,715円

合計 59,132円

## 6. 歩行の詳細

写真等を含めて、以下のページに記載願います。

11月12日(火) 天気 曇り 一時小雨

10:40 新潟駅→11:50 昼食 12:20→13:08 阿賀野川大橋→13:35 濁川IC 13:45→14:45 新潟競馬場→  
15:30 横土居橋手前 15:40→16:05 港湾労働者福祉センター

今回の計画を立案するに当たって、2日目以外は雨模様の天気予報であった為、休憩場所の確保に気を遣った。ゲーグルマップのストリートビューを活用し、路線バスや通学用待合室をピックアップしておいた。結果的にこのピックアップは雨中の歩行には有効であった。

新潟駅から今日の宿泊地までは、阿賀野川と新潟東港を越えるため、海岸線を避け、昼食過ぎまでは県道3号線を行く。月曜日は定休日の店が多く、予定した昼食の食堂も休みであったが、近くに開店していた食堂があったので助かった。昼食後は国道7号線脇の農道を阿賀野川大橋まで進む。国道は車の往来が激しいが脇道は人影もなくポプラ並木の横をのんびり歩く。途中阿賀野川大橋で小雨が降ったがまもなく止む。

橋を渡り終わってからは7号線と別れ、また野原の中の小径を新潟競馬場に向かって歩む。競馬場はナイトを開催しているとのことであったが昼間は人影もなく閑散として居る。

広い競馬場の敷地を迂回している途中、翌日宿泊予定の村上のホテルから電話が入る。何かかと思ったが、単に今晚宿泊予定の江守さんと連絡とれないかとの問い合わせであった。

福島潟放水路の橋を越えると、本日の宿泊地 新潟東港のデッキレンが見えてきた。

今日の宿は1泊2食 5450円と超格安。食堂の入口に食券の販売機があり、思わず食券を事前に購入するか聞いてしまった。格安の割に料理も我々老人には十分な量で、質もそれほど悪くはなかった。

宿は東港に面しており、対岸のフォニイエネルギー新潟発電所からの白煙が夜中、暗い夜空に棚引いていた。



バス待待合室



国道7号線脇のポプラ並木



新潟競馬場を目指して

11月13日(水) 天気 晴れ

本日の行程は長く単調な道が続くことから、計画段階から2班に別れて距離を稼ぐ事にした。

前半(住山)

後半(稲葉)

ホテル7:20(タクシー)→7:37 黒山駅(電車)→8:41 中条駅9:35(乗合タクシー)→9:55 笹口浜 宝持院10:00  
(歩行開始)→10:20 胎内川→10:50 荒井浜 11:00→11:50 はまなすの丘(昼食)12:30→13:50 荒川の先  
4:00→14:33 お幕場森林公園大池 14:45→15:52 瀬波温泉入口 16:00→16:20 瀬波温泉大清荘

中条駅から約1時間毎に出発する乗り合い自動車「のれんす号」を利用する。「のれんす号」は予約制300円で運行

リアであればどこでも乗り降り可能で地方都市ならでは便利な交通機関であるが、電車の時刻表に合っていないのが玉に瑕で、中条駅での待ち時間が多く、歩行開始時間がかなり遅くなってしまった。

引き継ぎ地点の笹口浜から桃崎浜までは多くの風力発電機が並ぶなか、海岸線沿いの国道 113 号を行く。その後は国道 345 号となる。新雪に輝く飯豊連峰や朝日連邦が進行右手に遠望できる。海岸線との間に赤松を主体とする森林公園が続く。多くの地域で松食い虫による松枯れが見られるが、松食い虫は「ツツガイテチュウ」と「ツツガクワミキ」の 2 種によって被害が拡大するという説明板が掲げられているところから、この付近も被害が多いのであろうか？

胎内川では鮭の遡上が観察される。胎内橋の下では釣り人が竿を下ろしているが、鮭を釣っているのだろうか？

昼食の「はまなすの丘」には日本海を眺める展望台があり、多くの海浜植物が植生するところであるが、季節柄、真っ赤なハマナスの実が群生する程度であるのは残念。

昼食後まもなく、一人の女性に声をかけられる。我々のような旅人を宿泊させたり、観光案内したりして旅の話を聞くのを楽しみにしているという。車で案内すると誘われたが、歩くのが目的なので車で案内して頂くわけにはいかない。江守さんの今日の予定は村上市内の観光とみやげの購入と聞いていたので連絡を取ろうとするが電話は通じない。一方住山はまもなく歩行が完了し、その後、車と電車でホテルに向かうので、連絡をとり紹介したが、彼も予定があったらしくお世話になることはなかった。ジュースとお菓子の差し入れを頂き、好意に答えられない歯がゆさを感じながら別れる。彼女からは翌日も雨なので行動はないと思ったのか、案内すると電話があったが、雨でも我々は歩行するので、丁寧に断る。このような出会いも旅の楽しさのひとつであろう。

再び鮭の遡上が観察された荒川を過ぎると、お幕場森林公園が続き、その北側には「県北の白鳥の湖」として知られる大池がある。白鳥以外にも多くの野鳥が飛来して池を遊泳している。

岩船町に入ると人家も増え、ドラックストアを発見した。今回の靴が合わなかったのか、マメの治療で初日に準備した絆創膏が無くなったので購入する。

町並の軒下には村上市の冬の風物詩である塩引き鮭がもう吊り下げられている。

途中予定外の行動があったためホテルの手前で夕日を迎え、薄暗くなった中、江守さんにホテルで迎えられた。

今日のホテルは山形沖地震の復旧支援コースを選択したため、アンケート記入により 3,000 円/人引きという特典があり 1 泊 2 食付きで 7,120 円に抑えられた。



親切な S・T さん



大池の野鳥の群れ



冬の風物詩 塩引き鮭

11月14日(木) 天気 雨 強風

ホテル 8:15→8:57 三面川鮭産漁協第三ふ化場分岐 9:10→9:50 岩ヶ崎通学用バス停 10:00→10:40 弁当屋  
11:05→11:55 柏尾バス停(昼食) 12:40→13:20 ふれあいセンター(バス停) 13:30→14:47 浜新保バス停  
15:00→15:15 桑川駅→15:23 民宿かねます

村上市といえば鮭で有名である。三面川の鮭漁は鮭の遡上する 10/末から始まる。今回の歩行の時期もこの鮭漁を考慮して決めた。また塩引き鮭は湿度が高く気温が低いこの市が適地で、独特の製法で名産物と言われる。

三面川の漁法の『居繰網漁（いぐりあみりょう）』は国道 345 号線に架かる瀬波橋の上流 1 km の場所で 9 : 00 から行われる。瀬波橋から三面川を見ると昨晚からの雨で水は濁り魚影は見当たらない。また風雨が強く当初予定した漁法の見学は諦め、先を急ぐ。

岩ヶ崎を回ると日本海からの強風に曝され、体を丸め歩行するのもやっとの状態。通学用バス停の建物に飛び込んで休息をとる。村上から今日の宿泊地の間はコンビニは無く、昼食時間帯には食堂もないため、グーグルでやっと探した弁当屋で昼食を購入した。予約が多く入っていたため待たされ、予定外の 40 分を要した。悪天候の中、暖かいお茶は一時のやすらぎとなった。

大川も鮭漁で知られており、ここでは三面川と違ってコド漁という漁法を採用しているらしいが、この川も濁りのため魚影は見え、また漁自体中止したようだ。

大川を過ぎるとまもなく柏尾バス停が見つかった。昼食予定の手前だったが昼食を取る。バス停の建物内に時刻表が貼られており、見ると 2 便/日の内 12 : 40 発が今日の宿泊地桑川駅まで行くことが判明。急遽 江守さんはここからバスで宿に直行する。

バスを見送ってから相変わらずの風雨のなか、住山と二人歩行を続行する。吉浦、早川、馬下 等の集落が散見するがほとんど人影はない。海岸線の道は直接風が当たるので、集落の中に平行した道がある場合は風除けのためそちらの小径に行く。弁天島を回ると今日の宿泊地桑川駅に隣接する「道の駅笹川流れ」の特徴ある夕日会館の建物が見えてきた。

途中、江守さんから「酒屋があつたら日本酒を購入してきて欲しい」との電話が入る。既に宿で地元の酒を飲んでいと思っていたが、「道の駅」を始め酒の販売している店が見当たらないという。3 人とも日本酒党なので、探しながら行くが結局は見つからなかった。グーグルに記載の桑川駅前の酒屋に聞くと今は閉店していて村上まで行かないと購入できないとのこと。しかし民宿に日本酒もあつたので、慌てることもなく一安心。

民宿では豊富な料理に加えて女将さんからのサービスとして、30 cm 位の鯛の刺身を提供してくれた。美味しい日本酒と料理でご飯を控えたにもかかわらず、満腹となり鯛の刺身の一部は翌日の朝食に回して頂いた。

宿に着いてから本日の歩行結果から明日の計画を変更する。

- 江守さんは歩行を中止し、翌日帰宅する。
- 翌日も好天が望めなく、本日より距離も長いため 2 班に分かれる。前半（民宿→越後寒川駅）を稲葉、後半（越後寒川駅→鼠ヶ関民宿丸武）は住山が担当する。



ホテル前で  
橋下駄の上までとどく波



風雨の中の歩行



波のしぶきが掛かる馬下大橋

11月15日(金) 天気 雨のち晴れ

前半(稲葉)

宿7:40→7:47 笹川流れ遊覧船乗り場→8:10 眼鏡岩海岸展望台→8:34 蓬萊山 9:40→9:56 笹川流れ塩工房  
10:20→10:43 越後寒川駅(電車) → 11:15 鼠ヶ関駅(住山と合流) 11:25→11:35 民宿丸武

本日は電車の時刻まで余裕がある行程なので、嵐は去り小雨模様ではあるが、ゆっくり歩き始める。ルートは海岸線ギリギリを線路と併走して走っている。7分程で「笹川流れ遊覧船乗り場」がある。笹川流れは奇岩、絶壁、洞穴が立ち並ぶ延長11kmの景勝地で国の名勝天然記念物となっている。眼鏡岩海岸展望台に頼山陽の孫である頼三樹三郎の「松島はこの美麗ありて この奇抜なし 男鹿もこの奇抜ありて 此の美麗なし」の石碑があった。昔この海岸線は難所であったため芭蕉はこの道を避け、この先の勝木より山の方に入り、村上に向かったと言うが、此の景観を見たらどのような句を詠んだだろう。時々現れるトンネルとトンネルの間の入り江から見る巨岩と松の景観にデジカメのシャッターを押すことが多くなる。

板貝海水浴場の駐車場に長さ2m、太さ30cm以上もある男性のシボルをかたどった松の巨木が飾られていた。案内板によるとさいの神のご神体で毎年小正月に正月の松飾りなどを納める際に、その日、共有林から切り出した松の木から一刀彫りで作りお供えするという。

今川浜に入ると、道路脇に「としがいもなく、砂浜を駆けてくる」の石碑があった。我々のことを詠んでいるようだ。脇川漁港を過ぎてまもなく、海水をくみ上げ、薪を炊いて作る昔ながらの塩作りの工房があり、それを見学しながら塩ソフトクリームを頂いた。

蓬萊山を過ぎるあたりから青空が見え始め、海上に浮かぶ栗島に虹が架かっているのが間近に見えた。

笹川流れの北限である狐崎を回れば海岸線は白浜が続き、狐崎には寒川のキャッチフレーズである「白砂の里 寒川」の看板が掲げられていた。この付近では集落毎にキャッチフレーズを掲げている。ここからまもなくの越後寒川駅から鼠ヶ関までは電車を利用する。

民宿で合流の予定であったが、鼠ヶ関駅に下車して、住山に電話すると近くまで来ていたので、駅で合流する。



眼鏡岩



笹川流れ塩工房



狐崎

後半(住山)

合流後

鼠ヶ関農協前 13:56(バス) → 14:03 小岩川(歩行開始) → 14:25 道の駅あつみしゃりん → 15:00 念珠ヶ関跡 → 5:11 念珠の松庭園 → 5:20 宿

宿に荷物を預けて、宿の紹介(兄が経営)の料理屋に昼食に行くが、満席で他の食堂に行く。昼食後、あまりにも早い時

間なので、明日のおよそ半分位置までの行程を逆コースで歩く。雨は降っていなかったが向かい風により非常に歩きにくい。

鼠ヶ関は平安時代に白河関、勿来関に並ぶ鼠ヶ関があったところであるが、念珠ヶ関（ねずがせき）は江戸時代の表記で旧の関跡はここから南方1kmの新潟県境に近いところにあった。また「義経記」の義経一行奥州下りの鼠ヶ関通過の条は、歌舞伎の「勧進帳」を思わせる劇的場面として描かれているという。民宿の前を通過し、太い枝が20m近く横に伸びている念珠の松庭園を回って宿に戻った。

今日の民宿は魚やが経営しているので、昨日同様食べきれないくらいテーブル一杯、魚主体の料理が並べられた。



小岩川より歩行再開



念珠ヶ関（勧進帳の老家？）



念珠の松庭園

11月16日（土）天気 小雨のち曇り

民宿 7:50→8:01 農協前バス停（バス）→8:08 小岩川 8:14（歩行開始）→8:50 岩川漁協前 8:54→9:37 あつみ温泉駅

出発時は小雨であったがその後止む。昨日歩行した小岩川までバスで行き、そこから歩行開始する。

本日の歩行距離は僅かであるので、日本海パークラインを海岸線に沿ってのんびり歩く。途中大岩川大橋の標識に「秋田 154 km 酒田 53 km」の記載あり。次回は秋田まで歩行する予定であるので、感慨深い。

海岸線よりあつみ温泉に行く近道は工事中通行止めで、温海川を渡ってから右折し今回の終着点あつみ温泉駅に行く。計画では最終目的地到着後、バスにて1000年以上の歴史を持つあつみ温泉(2.5km)に行く予定であったが、歩き不足なので、歩いて行く。

まずは、町営の無人温泉に入浴。本来午前中は掃除のため、午後から入浴と言うことであったが、一人入浴していたので我々も入浴する。無料だが協力金200円を箱に入れる。湯温は50°以上有り水で薄めて入る。

日本三大朝市のひとつと言われ300年の歴史があるという朝市も開かれておらず閑散としており、食堂も廃業していたり閉店したりしていて、やっと1軒のラーメン屋を探す。しかし楽しみにしていたビールが無くあるのはサワーのみで寂しい解散会で今回の歩行は終わった。



大岩川大橋の標識



あつみ温泉入口のこけしモニュメント



あつみ温泉駅